

研究課題：8020 と健康長寿、京丹後長寿コホート研究での口腔内フローラの探索

研究者名：山本俊郎¹，金村成智¹，上原里程²，的場聖明³

所 属：¹京都府公立大学法人 京都府立医科大学 附属病院 歯科

²京都府公立大学法人 京都府立医科大学大学院 地域保健医療疫学

³京都府公立大学法人 京都府立医科大学 長寿・地域疫学講座

目 的

近年、口腔内フローラ（細菌叢）が全身の健康に係わる因子として注目されている。京丹後市は100歳以上が全国平均の2.8倍、健康寿命と平均寿命の差が全国平均より極めて少ない。これまでに我々は、80歳以上で20歯を有することが、口腔機能の廃用症候群を防ぎ、口腔内および腸内細菌環境が良好となる可能性を報告した。しかしDNAアレイ解析では、既知の病原性細菌のみの解析に留まり、フローラの機能を理解し、健康に繋がる因子を解明するためには、未知の菌についても解析が必要である。

そこで今回我々は、次世代シーケンサーを用いた口腔内フローラの網羅的解析を行った。

方 法

メタゲノム解析を中心に8020達成者と未達成者のコホート研究を実施する。健診項目は、口腔の生活習慣に関するアンケート、口腔内診査、口腔細菌叢検査、咀嚼能力検査、唾液検査、舌・口唇運動機能検査である。

結 果

8020達成者は、咀嚼機能、舌口唇運動機能、唾液量に問題なかった。しかし8020未達成者は、達成者に比べ咀嚼機能、舌口唇運動機能、唾液量。生活習慣に関するアンケート値が有意に低下した。8020達成者の唾液は未達成者に比べ、白血球、タンパク質の有意な高値とアンモニアが高値を認めた。そして、8020達成者は未達成者に比べ口腔内フローラの多様性を認めた。口腔内フローラの多様性と歯数の関係では、8020達成者の群で相関がなく、全高齢者および8020未達成者の群で相関がみられた。

考 察

健康長寿で8020であれば、口腔機能が維持されるとともに口腔内フローラの多様性を認め、口腔内環境が良好であると考えられた。今後、症例を重さねることで研究精度を高める予定である。